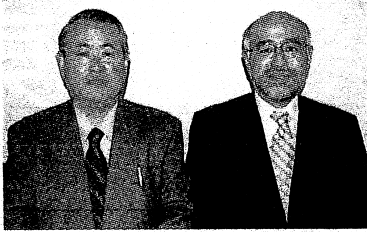


超伝導科学技術賞を受賞

産学連携研究で評価

豊橋技術科学大学とアドバンスフードテック



田中教授(左)と鈴木社長(豊橋市内で)

豊橋技術科学大学エコロジー工学系田中三郎教授(未来技術流動研究センター長)と豊橋市西幸町のアドバンスフードテック鈴木周一社長は、未踏科学技術協会・超伝導科学技術研究会の第12回超伝導科学技術賞を受賞した。15日に東京で表彰式。

新たな市場創造

同協会は、文部科学省 術の振興発展を図る機所管の公益法人で、先端 関。同賞では、超伝導に科学や未踏分野の科学技 関係する分野で卓越した

研究成果をあげた研究者(団体)を表彰している。

田中教授と鈴木社長は、高温超伝導SQUIDを使って食品内の金属異物を検査する装置を開発し、実用化した点が評価された。産学連携で進めた研究開発の成果が、新たな市場を創造した例として注目を集めている。

製品は、食品関連企業に納入していて、ユーザーサイドでも高い評価を受けているという。アドバンスフードテックは、この装置の製造で05年、「第1回ビジネスフェア2005」(東海地区信用金庫協会主催)のニューフロンティア部門最優秀賞を受賞している。

この検査方法では、0.5ミリの角程度の大きさの金属を探知することができ、従来行われていた金属探知機などと比べ異物(金属片)検出精度が高く、X線検査のような放射線被ばくもない。

この技術は、リチウムイオン電池製造やフィルム製造などの分野でも利用可能といわれていて、応用分野も広く、今後の発展が期待されている。田中教授は「長い間研究してきたことを市場に出せたのは研究者としてうれしい。一緒にやってきた鈴木社長のおかげ」、鈴木社長は「当社は小人数・小資本のベンチャー。田中教授と技科大のチームに新しい技術を細かい点まで教えてもらえたことが大きい。単独ではできなかった」とそれぞれ感想を話した。